「和歌山のため、皆様お一人お一人のために、本気で仕事をさせて頂きます!!」

① “地域（くに）づくりは、人材（ひと）づくりから・・・”

ニッケンスクール高典塾活動

日本教育新聞
平成１８年（2006年）１０月１６日（月曜日）

■私の主張■
地域を支える
■■14

和歌山県議会議員
浦口 高典

道場を常設し思う
「知行合一」大人が範示さねば

13年前に、「ニッケンスクール高典塾」という全国でも珍しい日本拳法の常設道場をビルの1室に設立し、週3回、子どもや社会人に自らが現場に立って、指導を行っています。

きっかけは、学生時代のクラブ活動（早稲田大学日本拳法部）で、選手として得た「感動」と「達成感」が忘れられず、1人でも多くの人にそれらを伝えたいと思ったからです。

だから、最初は、闘志あふれる高校生や、20歳前後の若者の入塾を期待していました。しかし、実際には、その年ごろの若者の入塾は少なく、来てもすぐに辞めてしまう始末でした。

それとは逆に、幼稚園児や小学生の入塾が多くなり、見るからにひ弱な子や、中にはいじめられっ子などが、親に連れられて道場にやって来るようになりました。

そこで、自分の経験を基に作ったカリキュラムを少年用に改め、『さわやかな／たくましい／子どもづくり』という新たな目標を掲げ、学校や家庭であまり教えられていない礼儀作法、立ち居振る舞い、姿勢、気合などを毎回、突き蹴りなどの技術とともに繰り返し教えました。

武道、徒手格闘の特徴は、同じ身体運動であっても、プレイといわれるように遊びから発達したスポーツとは違います。もともとは相手を殺傷する技術です。

だから、まず、相手を敬う礼儀などを教えないで、技術だけを先行させると、「強ければいい」という「ケンカ教室」になってしまう可能性があります。

私が師範（七段）を務めるNPO法人日本拳法協会の「道場訓」でもある「一、志を立てよ／二、気を振るえ／三、学に勉めよ／四、稚心を去れ／五、交友を選べ」を毎回、練習終了時に唱和させ、その意味を教えています。それらの積み重ねの中で、目標とする『さわやかな／たくましい／子どもたち』が少しずつですが、育ってきたのではないかなと自負しています。

3年半前に県議会議員に初当選してから、週3回、自ら道場に立ち、指導していくことは、時間的に大変厳しいものがあります。

しかし、最近の「教育論」はややもすると、その言葉だけが先行しているような気がしてなりません。もちろん、私がやっている武道がすべてではありませんが、私の信条とする「知行合一」という観点に立てば、何よりの私の身体で示す「教育論」であると思います。

このような中で、6年前に塾生を中心に、防犯パトロールを行っている「ガーディアン・エンジェルス和歌山パトロール隊」が発足しました。今も定期的に夜の防犯活動を行っています。

また、多くの市民から支持をいただいている「紀州よさこい祭り」の原点となった「和歌山MOVE」という踊りのグループも、わが道場を起点として発足しました。これも、道場を常設していることの成果であったと思っております。

（次回は11月6日付）

② “市民自らの手で、地域を元気に・・・”

紀州よさこい祭り立ち上げ

（日刊）わかやま新報　平成16年7月27日（火）第1面右上

和歌山に新風巻き起こす

踊り子約1400人が熱い演舞

市民有志主催で第1回紀州よさこい祭り

総踊りで一体となって踊る踊り手たち（25日、和歌山市内で）

和歌山を元気な祭りで盛り上げようと市民有志らでつくる「紀州お祭りプロジェクト実行委員会」（西平都紀子会長）が主催した「第一回紀州よさこい祭り」は二十五日、和歌山城周辺などであった。県内外三十一チーム約千四百人の踊り手が熱い演舞を繰り広げ、市民ら延べ七万人が楽しんだ。

演舞は片男波海水浴場、ウエルサンピア和歌山、和歌山城周辺の三会場で行われた。和歌山城周辺会場のけやき大通りでのパレードでは炎をイメージした、演舞曲を大音量で流す「地方車」（じかたしゃ）に続いて踊り手たちが鳴子を手に、躍動感あふれる踊りを披露。沿道は多くの観客で埋め尽くされ趣向を凝らした踊りに大きな拍手を送っていた。

和歌山公園西の丸広場で迎えたクライマックスは、和歌山の男性デュオ・ウインズの「YAPPA紀州」の曲に乗って総踊り。会場に集結した踊り手たちの熱気は観客も巻き込み祭りは最高潮に達していた。

西平会長は「元気いっぱいの踊り手、楽しそうな表情を浮かべる観客の皆さんを見ることができて感無量です。やってよかったと実感しました。踊り手や実行委員として次回参加したいという声もたくさん聞くことができました。来年も多くの仲間と祭りをつくり和歌山を盛り上げていきたい」と紀州よさこい祭りの第一歩の成功に表情を輝かせていた。

ありがとうございました!!

皆様のご支援ご協力のおかげで**「第一回紀州よさこい祭り」**が上記事の通り、大成功をおさめることができました。

思い起こせば、平成13年2月にNPO活動を通じて親しくなった二人の若者（内田嘉高君・上森成人君）から、「踊りをベースにした祭りを創り、**和歌山を活性化したい**ので浦口さんも協力してほしい。」という相談を受けたところから、この祭りは始まりました。踊りなどまったくといっていいほど経験はなかったのですが、彼らの熱意に動かされ、私の日本拳法の道場（ニッケンスクール高典塾）で、最初数名から練習をスタートさせました。（その後**「和歌山MOVE」**という団体をつくり、その一員として私もステージで踊りました。）

それから約3年5ケ月、**様々な挑戦、失敗、挫折、小さな成功、感動**を積み重ね今回に至りました。またこの祭りには、**約40名の実行委員、それに200名以上の市民ボランティア**がかかわり、みんなの力で成し遂げたことも大きな誇りに思っております。

来年もさらに、パワーアップさせ、この**「和歌山を元気にする!」**ためにも、裏方として私も今まで以上に頑張って参る覚悟でございますので、どうぞあい変わりませぬ支援ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成16年8月1日

紀州よさこい祭り
サポーターズクラブ
リーダー **浦口こうてん**
（和歌山県議会議員）

③ “行財政改革、まずは県議会が範示さねば・・・”

県議定数三名削減運動

☆「県議定数３名削減条例」案
（新生わかやま県議団提出）

《賛成》８人・・・本年２月議会にも同案を提出
- **新生わかやま（５人）** 玉置公良・阪部菊雄・原日出夫・野見山海・浦口高典
- **民主党（２人）** 東幸司・藤本眞利子
- **環境平和（１人）** 前岡正男

《退席》４人・・・「２名削減」を主張
- **公明党（４人）** 新田和弘・森正樹・江上柳助・角田秀樹

《反対》31人・・・「現状維持」を主張
- **自民党（24人）** 井出益弘・尾崎太郎・小川武・新島雄・山下直也・藤山将材・浅井修一郎・吉井和視・中村裕一・大沢広太郎・下川俊樹・須川信行・尾崎要二・山田正彦・飯田敬文・門三佐博・平越孝哉・坂本登・花田健吉・富安民治・町田亘・前芝雅嗣・谷洋一・小原泰（※向井嘉久蔵議長は除く）
- **共産党（４人）** 村岡キミ子・藤井健太郎・雑賀光夫・松坂英樹
- **県民クラブ（３人）** 和田正人・松本貞次・長坂隆司

平成１８年９月２９日（金）　朝日新聞朝刊・和歌山版

県議会
定数削減案、再び否決
自民、共産など反対

新生わかやま県議団が知事に直接請求した県議会の議員定数を46から43に削減する条例改正案が28日、県議会に提案された。自民党、共産党などが反対し、改正案は賛成少数で否決された。県議会は、全国の都道府県議会で唯一、地方自治法で定めた上限の議員定数を維持している。7月に公明党県本部が直接請求した2削減を求める改正案が否決されており、県議会は2度にわたって、定数削減を拒んだことになる。

議員定数削減の条例改正案が否決された県議会＝県庁で

議会の冒頭、木村良樹知事は「議会構成の基本にかかわる大変重要な問題。県民の理解が得られるよう審議いただくべきもの」と述べた。

意見陳述では、請求代表者で新生わかやま県議団の浦口高典県議が「法定定数から1人も削減していないのは和歌山県のみ。厳しい財政状況の中、県議会のみが聖域とされるという甘えは許されるのか」と述べた。反対討論はなかった。

採決直前、公明党県議団が退場。新生わかやま県議団、民主党県議団、環境平和の会の3会派8県議が賛成したが、条例改正案は否決された。採決後、浦口県議は「反対討論がないというのは、関心がないということ。署名を無視するのは、県民を無視することになるのではないか」と話した。

上記写真
右端、起立が
私です。

▼その他県議1期4年間で、**約700件の個別陳情**を誠意をもって、処理させて頂きました。

③

平成17年度の国勢調査によると、わが県は秋田県に次いで**全国第二位の人口減少率**。行財政改革はまず県議会からということで、自分たち**議員の数を減らす提案と県民署名運動**まで起こしましたが・・・。

②

今では、和歌山を代表する祭りのひとつになった**「紀州よさこい祭り」**ですが、きっかけは、二人の若者の熱き思いに動かされたことで、**全力でサポートし、市民主導の新しい流れ**を共に創り上げました。

①

平成21年で16年目を迎える日本拳法の道場（NPO＝非営利団体）ですが、**数々の実績とその姿勢が評価**され、全国で22万人の教育関係者に読まれている**「日本教育新聞」**に取り上げて頂きました。